

特集

地域公共交通、協調進めて再生 持続可能な運行へ輸送資源を総動員

6

2	富山和彦の直言
4	ニュース & インサイド 都の人口1400万人突破、若者層が流入
5	霞が関 底流伏流（厚生労働省） コロナ禍で紛糾の地域医療再編
20	グローバルインタビュー 神奈川県大和市長 大木 哲氏
23	地域ブランド戦略 殿村 美樹氏 インバウンドの穴埋めた地元
24	フォーカス 中学校の給食事情を探る
28	キーパーソン 全国知事会長 飯泉 嘉門氏
30	自治体財政 改善のヒント 鈴木 文彦氏 民間委託のチェックに役立つ残高試算表と資金繰り表
32	インフラ老朽化 地方の危機 植野 芳彦氏 新技術導入の抵抗をいかに取り除くか
34	観光の事業システム 高橋 一夫氏 空いた空間・時間をコストにしないための仕組み
36	地域共生社会への課題 浅川 澄一氏 斬新な「避難所付き共生住宅」
38	スポーツタウンへまちづくり（最終回）小石 勝朗氏 山形県村山市・ブルガリアのホストタウン

40	自治体会計と監査制度 谷口 信介氏 公営企業の「経営戦略」活用法
42	大学、地域を拓く 名古屋工業大学 子どもに工学の楽しさ、ものづくり人材育成
44	地域論壇 石川 智優氏 豪雨常態化時代の洪水対策
48	議長に聞く 北海道千歳市議会議長 佐々木 雅宏氏
49	ニュース・ウォッチング
54	Book Review/バックステージ



〈表紙の写真〉自動運転バス、実用化へアクセル

滋賀県大津市と京阪バスは7月、中型自動運転バスの実証実験を始めた。全国5カ所の実験の先陣を切り、JR大津駅から琵琶湖岸の施設・ホテルを巡る3.7kmのルートを一日10往

復。利用者は運賃210円を支払う。

バスはGPS（全地球測位システム）やセンサーで現在地や道路状況を感じしながら走行、運転士の手動運転と併用する。車内には自動運転技術

を伝えるモニターも設置している。9月27日まで実験を続けて、現在は営業運行を休止している同路線で、2021年度以降の実用化を目指す。（文＝杉野 耕一、写真＝山田 哲也）